



マダコの抱卵

赤い点に見えるのは稚ダコの眼です。

(写真・文 水中カメラマン 佐藤長明さん)

海藤華

水中で生物を観察していると当たり年や外れ年があります。

今年は台風の影響が少なく「台風とともにやってくる季節来遊魚たち（平成19年10月号水中樂園15参照）」は、ほとんど姿を見かけませんので外れ年です。しかし、マダコの抱卵が当たり年！数か所で抱卵の様子が観察できています。

数だけでいえば、去年は驚くほどマダコが多かったのですが、不思議な事に抱卵の様子を見ることはありませんでした。それに引き換え今年は何となく姿を見かけませんが、抱卵だけは良い状況です。

抱卵を始めたメスマダコは、一切餌を食べることなく足や吸盤を使い卵についたゴミを払ったり常に新鮮な海水を送ったりと甲斐甲斐しくその世話をします。また、その世話は最後の一粒が孵化を終えるまで続けられます。親ダコは孵化を確認し終えるとその生涯を終えるのです。

ちなみに、産卵前のマダコの卵は藤の花に似ていることから海藤華かいとうけと呼ばれ、煮たり蒸したりして食されているようです。

編集後記

▶ 9月は、新型インフルエンザの影響で予定していた町内行事が軒並みキャンセルになりました。特に、敬老会などは、皆さんと一緒に私も楽しみながら取材をしていたので、とても残念です。今月号でも特集しましたが、まずは手洗いやうがいなどの予防を心がけ、症状がでてしまったときは、あわてずに冷静な対応をしましょう。▶ さて、10月になると秋も本番を迎えます。紅葉や旬の味など、いろんな秋探しに出かけてみてはどうでしょうか。私はというと、久しぶりに海で「どんこ釣り」をしてみようと思います。秋の涼しい風を感じながら、サンマをエサにテトラポットの穴に糸をたらして当たりを待つ。いいですね。ただ、一緒についてくるであろう家族3人のうち、一人は魚を「きもちわるい」と語るひ弱なママ。もう一人はヨチヨチ歩きの赤ちゃん。そして最後は、デパートでの迷子の放送をステータスとしている4歳の特攻野郎。ゆっくりと秋を感じることができるのは数年先になりそうです。
担当 加藤

南三陸町ホームページ

パソコン用

<http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/>

携帯電話用

<http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/m/>



ホームページ
(携帯電話用)

南三陸町メール配信サービス登録ページ

<http://m.town.minamisanriku.miyagi.jp/>



メール配信サービス登録

●日曜当番医

10/4 上田クリニック
☎36-2316(歌津字中山)

10/11 鎌田医院
☎36-2008(歌津字伊里前)

10/18 ささはら総合診療科
☎47-1066(志津川字汐見町)

10/25 佐藤徹内科クリニック
☎47-1175(志津川字廻館前)

11/1 高橋クリニック
☎46-4315(志津川字中瀬前)

●第1・第3日曜歯科当番医

10/4 小野寺歯科医院
☎36-3717(歌津字伊里前)

10/18 高橋歯科医院
☎46-2631(志津川字五日町)

11/1 三浦歯科医院
☎42-2418(気仙沼市本吉町津谷)

※診療時間受付は午前9時～午後5時。
※日曜当番医は、変更となることがありますので、あらかじめ電話で確認してください。受診の際は保険証をお持ちください。